

# きりばたけ

## 通信

77号

令和7年6月号（年4回）  
札幌司法書士会 会長 下村尚也  
編集担当責任者 番井菊世  
<https://sapporo-shiho.or.jp/>  
〒060-0051  
札幌市中央区南1条東1丁目3番地  
パークイースト札幌2階  
電話 011-281-3505  
FAX 011-261-0115



### だまされる理由、守る知恵

先日、北海道警察から特殊詐欺の被害が急増しているとの発表がありました。前年同時期と比べて、件数・被害額ともにおよそ4倍に上っています。ニュースなどで繰り返し報道されているにもかかわらず、なぜ同じような被害が後を絶たないのか、不思議に思う方もいるかもしれません。今回は、特殊詐欺をはじめとした悪質商法に共通する「だまされる仕組み」について、あらためて考えてみます。



だまされる仕組みって、話が広いけど、どのように考えればよいの？

それは「消費者契約」にヒントがあるよ。もともと、消費者契約は、プロの事業者と、一般消費者の間に「情報の量と質」「交渉力」に格差があることを前提にしているんだ。



司法書士 安東



もっとわかりやすく教えて！

まず「情報の量と質」について。たとえばお菓子を1つ買うだけでも、消費者にはどんな材料がどれだけ入っているか、その材料がどういうものかまでわからないことも多いよね。



たしかに。材料名をなんとなく知っていても実際には詳しくないものもあるし、本当にそれが入っているかまで確認することも難しいかも。

それが昨今のデジタル技術に関することになるとなおさらだね。次に「交渉力」だけど、消費者が事業者に対して「お菓子を半分の量を半額にして」とか、「砂糖は別のものにして」とか言っても、交渉するのは難しいよね？



じゃあ買わなくてもいいよって言われちゃうよね！

そう、つまり消費者と事業者は対等ではなく、契約において重要な「情報」や「交渉力」に差があるから、消費者を守るための法律が整備されているんだよ。



だから事業者には法律や条例でいろいろな規制があるんだね。

そう。そして消費者は、そういった規制があるから「きっとちゃんとしているはずだ」と事業者の言うことをある程度「信頼」して契約している。





なるほど、でもそれってかなり受け身な姿勢なんだね。相手が詐欺や悪質業者だったらひとたまりもないな。

今の社会は技術も高度で複雑だから、消費者が自力で相手の言うことの見偽を見抜くには限界があるよね。



詐欺グループや悪質業者は、人をだましてお金を取ることにばかりに知恵を使っているから、手ごわいね。つまり、誰もがだまされる可能性があるということ？

そのとおり。手口を知っておくのは被害を防ぐ近道だけど、知らない手口に遭ったときに備えて、「だまされない力」や「相談できる力」を持ってほしい。



でも、お金のことで、なかなか相談しにくいよね。

それも詐欺の手口の一つ。「誰にも相談しないで」とか「他の人に言うてはいけない」と言われて、相談できない状況に追い込まれるんだ。そんなときこそ要注意なんだよ。



AI相談を活用したりして、もっと気軽に相談できる仕組みが広がるといいよね。

次に「被害が大きくなる仕組み」だけど、最初に少額を払ったあとにどんどん高額になっていくケースがあるよね。「どうして途中で気が付かないの？」と思われがちだけど、↑



実はこれ、人の心理に原因があることが行動経済学でわかっているんだ。一度お金を払ってしまうと、その後の金額感覚が麻痺したり、「ここでやめたら今までのが無駄になる」と思ってやめられなくなる心理。それは投資やギャンブルでも「損切り」が難しいと言われていて、特殊詐欺でもその心理が利用されている。



やっぱり最初で気が付けるかどうか大事なんだね。



「この金額なら支払える」と思うのも被害の入口に立ってしまい危険だよ。



一生懸命働いたり、受け継いだ大切な資産をだまし取るのは、本当に許せない。お金の被害だけでなく、自尊心まで傷つけられる。

だまされたひとを責めたり、揶揄したりすることはダメ絶対。そうすると相談しにくくなって、だます側が得をする社会になってしまう。



ルールを守らないだます側が得をしては、ちゃんとルールを守っている事業者も報われないし、若者がそういう価値観で仕事を選ぶようになると怖い。そういう意味でもだます側を許さない姿勢が大事だね。

情報が複雑になっている今の社会では、「誰もがだまされる可能性がある」ことを意識して警戒しつつ、きちんとした事業者を応援する「エシカル消費」ができるといいね。



「きりばたけ」のバックナンバーはここで読めます

